

## アート&テクノロジー東北 2021 講評

2021年10月25日

今回、コロナ禍であるためにホームページ開催となりました。応募総数は32点。開催できた2019年度（昨年度は中止）の94点よりも少ない三分の一程度になってしまいました。

本コンテストの主軸ともいえる作者によるプレゼンテーションは実施できずに、ホームページ上での応募作品の動画や静止画の提示のみとなってしまったのは残念なことでした。しかしながら、それでも、インタラクティブな作品の設置で美術鑑賞のあり方を新たに提案しているシステム、オンラインでの人の行動を可視化して社会の構造を明らかにするようなシミュレーション、コロナ禍で現実の体験の機会が失われたからこそ意義のある体験型ワークショップのコンテンツ、またマスクが必要になったからこそそのテーマとしてマスクに画像を合成するツール、3Dホログラム技術を活用したインタラクティブなコンテンツゲームなど、応募された作品には、困難な状況においてもそれぞれの工夫の跡がみられ、逆境に立ち向かい、新たな創造の試みをやめない意気込みが感じられました。

特に高校生グループからの応募についてもありがたく、また若い皆さんの活動を頼もしく思いました。今後、益々の発展が期待できるものばかりでした。たいへんな時期にご応募いただき、誠にありがとうございました。

岩手大学 人文社会科学部 本村 健太